浄土真宗本願寺派 順光寺 寺報

順光寺だより

第8号

2023（令和5）年7月1日発行

境内に咲く牡丹の花。毎年、大輪の花を咲かせます。

住 職 挨 拶

順光寺住職　籠　純吾

慈光照護のもと、皆さまにおかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

5月8日、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類」に移行されました。「アフターコロナ」の時期に入ったとはいえ、まだまだ不安な日々をお過ごしの方は多いと思います。また、「これからどうするべきか？」という問いに、まだ答えが見えない状況も続いています。

社会が大きく変化する中、お寺そのものの置かれている環境も変わっていきます。その中でも、決して変わらない「み教え」があること、それを後世に伝えていく場がお寺であるということを忘れずにいたいと思います。

昨年度、初めてお勤めしたお盆の合同法要も、そういった思いから発案したものです。初めての試みですので、まだまだ改善が必要ですが、今後も継続してまいります。

住職として、門信徒の皆さまのお気持ちに寄り添えるお寺であり続けたいと考えています。引き続き、お力添えをいただきますようよろしくお願いいたします。

総代長挨拶

順光寺総代長　福井昭夫

寺報「順光寺だより」第8号をお届けいたします。編集委員の皆さま、ご執筆いただいた皆さまに厚く感謝申しあげます。

新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着きを見せ始め、規制なども緩和しつつある今、世界各地で「アフターコロナ」への対応が迫られています。

もちろん、順光寺も例外ではありません。総代会では今後の取り組みなど協議を進めています。

昨年度は、コロナ禍で2年連続で中止していた門信徒総会を3年ぶりに開催。本年度も6月11日(日)に開催し、順光寺のこれからの運営について忌憚のないご意見をいただきました。大変ありがたく思います。

この「順光寺だより」は、「アフターコロナ」においても、門信徒の皆さまと順光寺の大切なコミュニケーションツールです。ぜひともご意見・ご感想などをお寄せください。

題　　字：順光寺前住職　籠 博道
表紙写真：順 光 寺 住 職　籠 純吾

順光寺トピックス

新しい寺号板・電柱広告

順光寺は、表通りから奥まったところにあり、「場所がわかりにくい」というご意見を多くいただいていました。

総代会で協議し、入口の電柱に目印となる広告を取り付けることにしました。

併せて、寺号板（門にかける石板）を作り直しました。文字を読みやすいように白地にしています。

仏教婦人会

毎月10日の10時より、お寺で例会をしています。

お勤め、仏教や浄土真宗のお勉強、お茶菓子をいただきながら、ざっくばらんなおしゃべり。

メリハリのある時間です。

また、お出かけや忘年会など、お楽しみもあります。先日は木次のトロッコ列車に乗ってきました！　皆さん楽しかったのお声。ここで「寺友」「法友」をつくりませんか？

大正琴教室（琴城流）

平成4年に発足。月1回の練習（月曜10時）。

昨年より先生が代わられました。とてもハキハキしたお声の先生で、楽しくわかりやすく指導いただいてます。

いろんな曲を弾いて、指の運動、集中力もつきます。

生徒さん随時募集中。初心者でも大歓迎！ご興味のある方はお寺まで。

ご門徒の活動

門徒推進員中央教修に参加して
～門徒推進員としての生き方とは…～

順光寺　門徒推進員　杠　佳子（釋杠佳）

2022（令和4）年9月30日（金）～10月3日（月）の3泊4日で、京都・聞法会館を会場に開催された「第279回門徒推進員中央教修」に参加させていただきました。

3年前に連研（門徒推進員養成連続研修会）を松江で修了していたのですが、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する状況下で中止になったり、リモート研修になったり、研修も縮小を強いられた数年間でした。

私はどうしても京都に行き、全国の門徒推進員の方々と関わり、ともに学びたいと願い今回まで待ちました。北海道から鹿児島までの参加者41名、スタッフの皆さま23名との出会いは、不安もありましたが、期待の方がとても多く楽しめました。

始めに部長さんからの挨拶で、「この会は研修ではなく『教修』であり、これから伝える・繋げる役割を学んでほしい」という言葉があり、身の引き締まる思いがしました。

門徒推進員の養成を目的として宗派の方針として始められた連研は、自分の問いを持ってみ教えに聞くことを大切にする「話し合い法座」によって、み教えそのものを学ぶだけでなく、生活や社会のさまざまな課題をみ教えに問い聞く姿勢を育むものです。

法座は6人のグループで（新潟・東海・奈良・東海・大分・鹿児島・山陰）の方々との法座でした。スタッフの方は、福岡・奈良・兵庫の僧侶・門徒推進員で、とても丁寧に接してくださいました。

私は、山陰教区から1人の参加で、名前が珍しいこともあり、いろいろな方から話しかけていただき、つながりが持てました。

法座は3時間を目標として話し合い、まとめて発表の流れでした。法座の内容は、「①であい」「②み教えからの気づき〈神〉」「③御同朋の社会とは〈差別〉」「④救いと歩み〈浄土〉」でした。この内容を報告したいのですが、文章にはまとめきれないのでまたお知らせできればと思います。

皆さんとの話で正解・不正解はないのです。阿弥陀如来さまは私たちをそのまま救いとりたいと願っておられ、「南無阿弥陀仏」と手を合わせる中で、そのままを受け止めてくださることを学びました。

また、本山の御影堂（ごえいどう）において帰敬式（ききょうしき）を受式させていただきました。その日は60名近くの方がおかみそりを受けました。嬉しいことに代表で帰敬文（ききょうもん）を読ませていただきました。また、仏の弟子として生きていけるように歓びの人生を歩ませていただきます。

私が一番感動したのは「仏教讃歌」です。素晴らしい先生の指導のもとで全員が時を忘れて歌い、心がひとつになったようでした。順光寺の「報恩講」でお勤めされている「宗祖讃仰作法」は婦人会の例会でもできればと思います。

一番緊張したのは「決意表明式」でした。ご本尊の前でろうそくの中で行う決意表明です。

「私は和顔愛語を心がけることを誓います」と決意しました。

帰敬式で、私は「釋杠佳（しゃくこうか）」のご法名をいただきました。「杠」の苗字で私の人生は随分助けられました。また、名前は父親がつけてくれたものです。このご法名をこれからも大切にしていきます。

2023（令和5）年には「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」が本山・西本願寺でお勤めされました。今回の慶讃法要に向けて「世の中安穏なれ、仏法ひろまれ」との親鸞聖人のおことばを胸に、地道にその役割を果たせるように精進して参ります。この研修に参加させていただきましたこと、心より感謝申しあげます。

第二〇六五号
修了証
山陰教区 松江組 順光寺
杠 佳子
第二七九回門徒推進員中央教修の全課程を修了されたことを証します
令和四年十月三日
浄土真宗本願寺派 総局

ご門徒の活動

日常から学んだ「生きる」

順光寺　門徒　田中洋子

私は、リハビリテーションを学んだ時から、「生きる」を考えていました。父・母、義父・義母の姿、仕事で出会った方々、いろいろな場面で支えてくださった方々から、「生きる」を学ばせていただきました。

さらに、家庭人・仕事人の私を“「わたし」あぶりだし”で、生き方をふり返りました。その最中、幾度となく、主人の言葉・表情が思い出され、共に過ごした時間を感謝してのまとめとなりました。

日常は新たな経験の始まり。「只今 修業中」の繰り返し。まだまだ人生の途中です。最期まで「わたし」らしく、心豊かに過ごしたいと思います。

御理解いただければ幸いです。

ご門徒の
田中洋子さんの
書籍が発売
されました

只今 修業中
（文芸社）
田中洋子・著

2022（令和4）年度　行事報告

婦人会お花見〈6月9日〉

由志園に出かけ、散策を楽しみました。花菖蒲が見ごろで池の周りにたくさん咲いており、心が和みました。お食事も美味しくいただき、よい思い出になりました。

門信徒総会〈6月12日〉

新型コロナウイルス感染症の影響で2年間中止としていた門信徒総会。3年ぶりの開催です。感染対策を徹底して開催しました。

盆前清掃〈8月6日〉

お盆前の一斉清掃。ご門徒の皆さまと一緒に本堂や境内のお掃除、仏具のお磨きを行いました。
今年も、気持ちよくお盆をお迎えすることができました。ありがとうございました。

盆合同法要〈8月15日〉

門信徒の皆さまの生活様式が変化したこともあり、2022年から、ご自宅のお盆参りに加えて「盆合同法要」をお勤めすることとしました。
8月15日の午後2時から、本堂で一緒にお盆のお勤めをさせていただきました。

元旦会〈1月1日〉

年の初めに御仏前にお礼をし、心を新たにする法要です。
新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底してお勤めさせていただきました。
寒い中、ようこそお参りくださいました。

報恩講〈11月6日〉

「報恩講」は、浄土真宗の教えをお遺しくださった宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、お聴聞をさせていただく法要です。
浄土真宗の寺院では、年間を通して最も大切とされる法要です。
今年も、新型コロナウイルス感染症の予防のため、午後法要・一座のみとしました。
ご講師は、吉川光城 師（飯南町・真向寺 住職）。ご門徒の皆さまと一緒にお聴聞させていただきました。
婦人会の皆さまが中心となってバザーを開催。ご協力ありがとうございました。

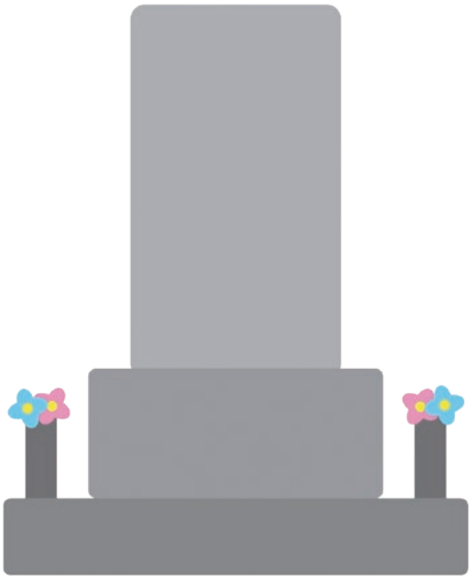
春彼岸・永代経法要〈3月21日〉

亡き人をご縁とし、故人を偲びながら、ご自身が聞法のご縁をいただく法要。毎年、春のお彼岸の中日にお勤めしています。
阿弥陀経をお勤めし、住職からお話をさせていただきました。

仏事Q&A

お墓について

お墓は、
亡き方のお骨を納め、
亡き方を偲びつつ、
仏縁にあわせていただく
大切な場所です。



お墓の形や大きさに決まりはありますか？

浄土真宗のお墓には、形や大きさに決まりはありません。一番多いのは縦長の墓石を使ったものです。「南無阿弥陀仏」の名号を縦に刻みやすいからです。とはいえ、「こうでなければならない」ということではありません。

お墓の向きはどの方角が良いですか？

皆さんがお参りしやすい方に向けて建ててください。お墓の向きに吉凶はありません。

お花は造花でも良いですか？

造花ではなく、生花をお供えください。お花を替えるのが難しい場合はしぶき等の緑だけでも良いです。できる範囲で生花をお供えしましょう。

お盆の時期には「あさがら」をお供えするのですか？

「あさがら」は、ホームセンターやスーパーのお盆用品コーナーで見かけますが、浄土真宗では用いません。

塔婆は使わないのですか？

塔婆に戒名を書いてお墓の前後に建てる宗派もありますが、浄土真宗では用いません。

お墓を新しく建てたら法要をするのですか？

お墓が完成したら、「建碑式（けんぴしき）」という法要をお勤めします。ご日程などはお寺にご相談ください。

お墓のことでお寺に相談しても良いですか？

お墓のことでお悩みでしたら、まずはお寺にご相談ください。できる限りのアドバイスをさせていただきます。

順光寺門徒総代紹介

任期：2023年4月1日～2028年3月31日
（敬称略、就任順）

福井昭夫
〈部会統括〉
総代長
責任役員

大石健夫
〈広報宣伝部会〉
総代理事
寺報編集委員会委員長

吉岡利雄
〈護持管理部会〉

杠　佳子
〈広報宣伝部会〉
順光寺仏教婦人会副会長
門徒推進員

春日照代
〈法要行事部会〉
順光寺仏教婦人会会長

河上昭二
〈法要行事部会〉
監事

阪本正美
〈護持管理部会〉
大野町選出

「順光寺だより」初代編集委員長・春日一男氏ご逝去

2023（令和5）年5月、「順光寺だより」初代編集委員長をお務めいただいた春日一男氏がご逝去されました。
長年にわたり、門徒総代として順光寺の護持発展にご協力いただき、「順光寺だより」の創刊にもご尽力いただきました。
ここに謹んでお知らせいたしますとともに、衷心より哀悼の意を表します。

順光寺公式LINE

順光寺の公式LINEを始めました。
ご門徒の皆さまに順光寺の情報を発信します。
LINEをご利用の方はぜひご登録ください。

浄土真宗本願寺派順光寺寺報
順光寺だより　第8号
2023（令和5）年7月1日発行

編集　順光寺寺報編集委員会
発行　浄土真宗本願寺派
豊饒山 順光寺
印刷　株式会社谷口印刷

浄土真宗本願寺派 順光寺

揮毫：細田青秀氏（順光寺ご門徒）

〒690-0881　松江市石橋町44
TEL 0852-23-3718　FAX 0852-67-3276
E-mail　info@junkouji.or.jp
公式サイト　https://junkouji.or.jp
順光寺　検索
junkouji.matsue　@junkouji　junkouji_matsue

フォト法話

Photo by Nagatani Jungo

仏華（供華）

法話・写真　籠 純吾（住職）

本願力にあひぬれば
むなしくすぐるひとぞなき
功徳の宝海みちみちて
煩悩の濁水へだてなし

（高僧和讃）

「お仏壇に造花をお供えして良いですか？」

時々、こんなご質問をいただきます。お仏壇にお供えするお花は、お墓と同様、造花は避け、四季折々の生花をお供えいただければと思います。

仏前にお供えするお花のことを「仏華（ぶっか）」といいます。また、尊前に花などを供えて荘厳（しょうごん）することを「供華（くげ）」といいます。

荘厳とは、仏壇のお飾りのことです。荘厳の意味は、「私」に注がれている阿弥陀如来さまのおこころを、目に見える形にして味わうことにあります。

お花をお供えすることで、麗しい花々が咲くお浄土を想い、阿弥陀如来さまのお慈悲を味あわせていただきます。そのため、お花はご本尊に向けるのではなく、「私」の方に向けてお供えします。

短いいのちでありながら精一杯美しく咲き、やがて枯れていく花々。その花の一生を通して、すべてのいのちを生かし育んでくださる如来さまのおはたらきに触れさせていただきます。

供華でご注意いただきたいことは次のとおりです。

- 造花は避けましょう。
- 悪臭や毒のある花、トゲのある花、つるのある花も避けてください。
- 定期的に水を換えましょう。

お仏壇には季節の花を心を込めてお供えしてください。「私」の方に向いたお花を通して、素直な気持ちで如来さまのおこころを味あわせていただきましょう。